

旧統一教会といふ存在 1 はじめに結論ありき 5 異常への抵抗 7

22年12月15日号より

(や＝山田 学) [☆★旧統一教会といふ存在★☆☆安倍元首相事件以降、旧統一教会についての話題が、多いです。しかし、旧統一教会についての、何十年前からの日本における報道は、むしろ、矮小化されてゐる、やうです。良い意味においても、悪い意味においても、旧統一教会は、戦後史において、大きな位置をしめる存在のやうです。そのあたりを、菅沼光弘『元公安調査庁2部長が教える「統一教会」問題 本当の核心安倍元首相はなぜ撃たれたか』(秀和システム2022年11月) に、学んでみませう。

旧統一教会は、米国の意思にて、存在してきたのであり、そもそも、1945年日本列島への各地空襲や原爆投下の、その背後にある、米国宗教の確認から、考慮すべしと、この著は教へます。]

(『「統一教会」問題 本当の核心』123ページより) [このような空襲や原爆の投下は、結局、アメリカが日本民族をこの世から一掃しようとしたとしか考えられません。彼らは神の命令で日本民族を滅ぼそうとしたのではないか。神の命令であれば、感情や

理性の入り込む余地はありません。]

(や) [次に、朝鮮戦争です。朝鮮戦争後に生じた、韓国人の反米ムードが、キリスト教系旧統一教会設置の、間接原因です。次に引用冒頭の「この戦争」は、朝鮮戦争をさします。]

(同91～94ページより) […この戦争が終わった時に、こんな戦争を始めたのはいったい誰だと、韓国人の間で、一気に反米のムードが高まったのです。アメリカ、けしからん、というわけです。

そこで、アメリカは、この高まった反米意識をどうするかとなったときに、この反米意識を反日に転換しようと、そのためのさまざまな工作をやったということなのです。

まず、李承晩大統領に反日教育を展開させた。

(中略)

…アメリカは (中略) キリスト教徒を増やすことによって反日的なムードを高めていくという方策をとりました。朝鮮半島において、キリスト教と「反日」は歴史的にも相性がいいのです。

(中略)

文鮮明は、日本はイブの国であり、韓国はアダムの国なのだ、というかたちで、イブの日本がアダムの韓国に貢ぎ物をするのは当然であるという、こういう教義をつくり上げてきたわけです。]

(や) [旧統一教会が、日本にて報道される以

上に、大きな組織であることの、一端が紹介されてゐます。]

(同58ページより) [かつて、統一教会の人が私に豪語したことがあるのですが、ウクライナという国は、世界の武器の密輸出の中心地で、統一教会の人間がずいぶんたくさん行っているのです、と。いまロシアと戦闘しているあたりです。その人が私に、こう言いました。「我々は武器の商売のことに関してはプロですよ」と。]

(や) [旧統一教会の関連組織で、原理研究会といふものがあります。これについて、菅沼氏から、意外な発言です。]

(同74～75ページより) [いまでも、原理研究会というサークルが各大学にあります。(中略)]

この原理研究会は、もともとの勝共連合の学生組織という流れを汲んでいますから、その中心思想は「勝共」です。(中略)

実際、彼らは、マルクス・レーニン主義、共産主義について本当によく勉強しています。これは、ちょっと敬服すべきぐらいだと思います。ただ単に、勝共、勝共と叫んでいるわけではないのです。やはり、共産主義というものに対して、根本的なところから、共産主義とは何かを、マルクス、エンゲルス、レーニンにさかのぼって、彼らの著した著書を読破し、さらにソ連や中国の共産党の理論もしっかり分析して、非常によく勉強しています。(中略)

今の日本共産党には、もう全然理論がありません。不破哲三で終わり。上田耕一郎、不破哲三（本名:上田建二郎）の上田兄弟の時代で理論は終わりました。私も、特に上田耕一郎は心酔して読みました。

ところが今では、共産主義の理論について一番よく知っているのは、日本共産党の人ではなくて、勝共連合です。]

(や) [「勝共」のはずの旧統一教会が、実は、北朝鮮とも濃厚な関係にある…。]

(同35ページより) [北朝鮮と文鮮明・統一教会はかなり濃厚な関係にあります。したがって、安倍晋三さんは、この文鮮明の統一教会に頼んで、拉致問題を統一教会の線で解決しようとしていたのではないかと、という筋がないわけではないのです。(中略)

北朝鮮に安倍さんは、統一教会の線を通じて接近しようとしていた。私は最初から、いけないよそんなことは、と思っていたのですけどね。]

(や) [朝鮮半島情勢の専門家である、菅沼光弘氏からのご指摘です。]

(同128ページより) […報道では、台湾有事を想定したような報道がこのところ圧倒的に多いですが、真実は、日本と北朝鮮、日本と韓国の関係にこそ、アメリカが一番懸念している材料が揃っていると私には見えません。]

(や) [いづれにせよ、安倍元首相事件を契機に、自民党も、旧統一教会も、また、創価学

会も、変化してゆくのではないかと。わたしどもは、さう、観てをります。]

23.3.15.より

(や) [☆☆☆はじめに結論ありき☆☆☆☆いはゆる「南京大虐殺」があつた、といふ、今の“国際認定”は、事実を根拠としてはゐないと、わたしどもは、考へます。ならば、なにを根拠、あるいは動機としてゐるのか。実は、米国のこころの奥にある、負ひ目こそが、動機となつてゐるのではないかと。

菅沼光弘、ベンジャミン・フルフォード、飛鳥昭雄『神国日本八つ裂きの超シナリオ』(ヒカルランド2013年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g15122298>

より、引用いたします。]

(『神国日本…』323～324ページより・菅沼光弘先生の発言) […東京裁判のときに南京大虐殺で30万人が犠牲になったとされましたが、これは30万人でなければいけなかったんです。なぜか。広島・長崎で27万人が実際に殺されたのです。それがアメリカにとっては、心の中で非常に負い目になっている。しかし、日本は南京で30万人殺したじゃないか。こういうバランスをとってしまつたんです。]

(や) [すなはち、はじめに結論ありき、で、事実検証は、決して、尊重されてゐないやうです。一神教勢力には、「目には目を。歯には歯を。』といふ、報復思想が、根強い。実

は米国、もしも日本国が核武装したら、ヒロシマ、ナガサキの報復として、ワシントンやニューヨークなどに、核ミサイルを打ち込んでくるのではないかと、まじめに恐れてゐたといふ説も、あります。純情平和な日本人のほとんどに、そんな発想は、ありませんが…もっとも最近では、米国がやうやく、日本人の純情さも理解し、米国弱体化傾向とも、あひまつて、実は、米国のはうから、日本国統治自立を促してゐる、といふ情報も、あります。さて、では、1937年の南京制圧時の、事實は、どうであつたか。それについては、まづ、早坂 隆『松井石根と南京事件の真実』(文春新書2011年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g13452125>

に、かなり正確に、書き込まれてゐると、思ひます。

「南京大虐殺」の「責任者」として、処刑された、松井石根^{いはね}大將は、陸軍のなかでも、とくに、〈日中友好論者〉でした。その松井大將の苦悩は、ともかく、東京裁判にて“国際認定”された、松井大將像とは、正反対なのです。

また、南京制圧時、敵の指導者が先に逃亡したのであり、ある意味では、無血開城に近かつた。むろん、大虐殺など、発生してはゐません。

ところで、その松井石根大將、山田 学の実家あたり、名古屋駅太閤通口すぐ、名古屋市立牧野小学校区の、大先輩です。しかしこの

事実、地元でも、タブーです。地元民のほとんども、知らないのです。戦後の風潮にて、東京裁判による“国際認定”に、いかに強く、遠慮してきたことか… わたしも、つい数年前、ある協議会に所属することにより、この事実を、知りました。

1938年、「敵国首都制圧の大英雄」として、松井大将が帰国された直後、わが牧野小学校にて、記念冊子をつくり、「松井大将の生ひ立ちを伝える授業」が、行はれた。当時、わが父は、11～12歳。当時の地元のその雰囲気もあつてか、父はのちに、陸士61期生となりました。(満洲にゐたら、シベリアに抑留された。)

のでわたしは、松井大将の復権と、南京制圧時の事実確認に、人並み以上に、関心がございます。松井大先輩の、恐ろしいほどの無念を、はらささせていただくことに、ある意味、燃えてをります。]

23.2.15.より

(や) [☆☆異常への抵抗☆☆☆☆トルコ・シリア大地震！ 亡くなられた方がたに、謹んで、お悔やみ申し上げます。被害にあはれた方がたに、謹んで、お見舞ひ申し上げます。

＊

最近、山田 学思想について、より親しく紹介してもらいたいといふお声もあり、すでに一部の方がたには、

『日本のふつうの女性と男性に…』(4枚)

<http://www.jomaca.join-us.jp/futsuu.pdf>

を、公開いたしてをります。

本日これを、JOMONあかでみいサイト〈健康平和研究〉画面からも、リンクいたしました。

この4枚のみにて、山田 学思想の全体模様について、知ることができるやうになりました。これは、今の地球の異常事態に、根本から抵抗する思想でもあります。

今の地球の異常事態については、増田悦佐先生の『人類9割削減計画』(ビジネス社2022年12月)といふ著があります。純情な日本民族には、信じにくいことですが、ダヴォス会議を主催する、世界経済フォーラム (WEF) や、ビル&メリнда・ゲイツ財団らは、本氣にて、人類9割削減計画を、実行しようとしてゐます。まうはや、かれらは、精神異常の域に入つたと、わたしなどは、思ひます。かれらは、とくに、西欧人以外を、人口削減したいのであり、西欧人による地球支配を、維持したいがための、民族差別です。これは実は、有名な、かのバートランド・ラッセルから、ある、差別思想なのです。

農業の意図的破壊、疫病騒動と毒性ワクチン、「再生可能エネルギー」への無理な移行…。増田先生のこの著は、各種証拠を挙げつつ、かれらの計画を、暴いてゐます。

ただし、そんな、精神異常な計画を、かれらに近い、(アマンド・ハマーが創業した) オクシデンタル石油や、また、ロックフェラー

財団が、牽制するのではないかとも、増田先生は、指摘してをられます。いづれにせよ、資本制人間社会の〈終末〉と、考へられる今、地球の異常事態について、一般人が正しく理解し、対抗すべし。]

(『人類9割削減計画』231～232ページより・原文の太字部分に___を付しました。) [アマンド・ハマーは1990年に世を去ったが、アル・ゴアという「二枚舌の天才」とウォーレン・バフェットという「投資の神様」がオクシデンタル側について、WEF・ゲイツ連合を見張っているかぎり、歪んだ正義感や政治的な方便で人口を9割も削減するなどというでたらめは、やらせないと思う。

また人類9割削減計画を推進中の5財団中、4つはテッド・ターナー、ビル・ゲイツ、マイケル・ブルームバーク、ジョージ・ソロスと創業者が存命の新興財閥系だ。残るひとつがロックフェラー財団という旧財閥の代表格なのも、土壇場でのどんでん返しを予感させる。ロックフェラー財団が、始祖が財を成す源泉となった石油を本心から見捨てることがあるだろうか。

独占禁止法によってスタンダード・オイルが解体された頃から、オイルメジャー各社は死んだふりをして棺桶の中に納まっていて、死体の検分に来たライバルの喉笛を噛み切って甦るような荒業を何度もやってのけた連中だ。地球温暖化程度の脅しに震え上がっておとなしくしているとは思えな

い。再生可能エネルギーへのインフラ転換が惨憺たる失敗に終わるまでは待って、それから化石燃料インフラへの再転換でぼろ儲けする気だろう。

さすがに人類9割削減計画は実現できないだろうとタカをくくって、こんな連中に任せておいたら、可処分所得の大部分は石油会社に召し上げられてしまう世の中になるかもしれない。

やはりWEF・ゲイツ連合の野望を暴くのも、再生可能エネルギーへの全面転換を阻止するのも、食糧危機とほんとうに怖い疫病の蔓延を防ぐのも、だれかがやってくれるだろうと思わずに、我々自身がやらなければならない課題だろう。]

(や) [事態について、わかりやすくまとめてくださった、増田悦佐先生に、感謝いたします。]